



仲間を「感じる心」

生徒指導主事 大津賀 悟史

新しい学年・学級が始まってもう3か月の月日が流れました。子どもたちにとっては、4月から様々な学習や活動を通してお互いのことを分かり始め、仲間に心を開けるようになってくる時期でもあります。そのような今だからこそ見られた子どもの姿を紹介します。

1年生のAさんは、明るく知的な子どもで、ユーモアあふれる言動を通して、いつも学級のみんなを楽しませてくれます。その一方で、気分が優れないときや嫌なことがあったときは集団から離れて一人になろうとする傾向がありました。7月の全校集会でも、Aさんは、集会前に機嫌を損ねてなかなか学級の輪の中に入れずにいました。プログラムが、全校合唱の「にじ」になったところで、Aさんはフロアの中心に入り、歩き回り始めました。私はここが集団に戻るチャンスと見て、Aさんに近付き、横を歩いて一緒に歌おうとしました。すると、同じタイミングでクラスメイトのBさんが、Aさんにずっと近付き「Aさん、クラスのところに帰ろう」と言いつて手を取ったのでした。Aさんは少し恥ずかしそうに、でも嬉しそうな笑顔を浮かべてBさんとクラスの輪に入っていました。



【全校集会の様子】

その数日後、1年生がオープンスペースで活動をした後、Aさんが教室に戻ってきませんでした。すると、Cさんが教室前廊下にいた私のところへ近付いてきて、こう語ったのでした。「Aさんはね、もっとオープンスペースで活動したかったんだと思うんだよね。だって、すごい楽しそうにしていたから。迎えに行きたいんだけど、もう少し遊んだら満足して帰ってくると思うから、ここで待っていようかな」Cさんは、Aさんの活動中の姿からその思いを推察し、敢えて迎えに行かずに我慢することにしたのです。すると、それから数分後、すっきりとした表情でAさんが帰ってきました。Cさんは「Aさん、待っていたよ」と優しく声をかけ、一緒に教室に入っていました。

このように、子どもたちは、相手のことや周囲の状況をよく観察し、仲間の思いに寄り添うことで、自分のできる最善の関わり方を感覚的に捉えて、瞬時に判断していることが分かります。子どもらしい豊かな感受性と、仲間を大切にしたいと願う素直な気持ちが重なり「絶対に一人にさせないぞ」「今は一人にしてあげるほうがいいんだ」という温かな決断を生み出したのでしょう。

学校教育ではもちろん、社会全体を通して「多様性の包摂」が叫ばれる時代になりました。多様な他者を認め、尊重し合い、力を合わせて社会を形成していく。大人でも難しいこの課題を、子どもたちは「仲間を『感じる心』があれば、簡単に実現できるよ」と教えてくれているように思うのです。改めて、子どもから学ぶことの大切さを実感するとともに、子どもをもっともっと信じて見守れるようになりたいと決意を新たにしています。



【仲よく教室に戻る子どもたち】

7月の行事予定



- 1日(火) 集金振替日
第4学年集団宿泊学習②
- 2日(木) 堀川チャレンジ活動④
- 3日(金) 近隣ファミリー会・地域教育推進協議会
- 6日(月) 個別懇談会①
- 7日(火) 個別懇談会②
- 8日(水) 個別懇談会③
- 9日(木) 個別懇談会④ 立山事前学習(6年)
- 10日(金) 個別懇談会⑤ すこやか検診(4年)
- 14日(火) ガラス美術館スクールプログラム(4年)
- 15日(水) 避難訓練
- 16日(木) 委員会活動⑤
- 18日(土) ユネスコ教室 AM
- 20日(月) 海の日
- 23日(木) 堀川チャレンジ活動⑤ 給食最終日
- 24日(木) 第一学期終業式



8月の行事予定



- 3日(月) 地域教育懇談会①
- 4日(火) 地域教育懇談会②
- 5日(水) 地域教育懇談会③
- 6日(木) 第6学年集団宿泊学習(立山)①
市小教研(事務部会)
- 7日(金) 第6学年集団宿泊学習(立山)②
- 11日(火) 山の日
- 12日(水) ~14日(金) 学校閉庁日
- 18日(火) 市小教研
- 21日(金) 全校登校日
- 27日(木) 第2学期始業式
- 28日(金) 給食開始日
- 31日(月) 教育実習開講式



※状況によっては、変更する場合があります。

自分のくらしを支えてくれている人への感謝

3年担任 番匠 拓也

社会科「堀川の店ではたらく人」の学習では、保護者の方、地域の方に協力をしていただき、一人ひとりの子どもたちの「行ってみたい」に合わせた全5回の町探検を行うことができました。

学習が始まって1か月半が経った頃、Aさんが授業で「私は学習が始まったときは、あまり堀川の店に行かないから、堀川の店で働く人と私は関係ないと思っていた。でも、店で働く人に話を聞く中で、自分と関係していることが分かって、私のくらしを支えてくれていると思った。私の命があるのは堀川の店で働く人のおかげだと思う」と話しました。

Aさんは、町探検の中で趣味噌商店で働く人と出会いました。お客さんの味の好みに合わせて、様々な味噌を用意していることへの驚きや実際に食べてみた美味しさも相まって、その人の作る味噌を家で使い始めたということでした。そして、その味噌があるから毎日美味しい料理を食べることができていることに気付いたAさん。また、Aさんは堀川校区の精肉店で働く人や野菜を運ぶ人のおかげで、毎日、美味しい給食を自分たちが食べることができていることにも気付きました。そのようなことに気付いたAさんだからこそ「私の命があるのは堀川の店で働く人のおかげ」と考えたのだと思います。そして、そのような自分のくらしを支えてくれる人に対して何かできることはないかと考えたAさんは、「だから私は『いただきます』『ごちそうさま』という当たり前のことをしっかりと行って、感謝してくらししていきたい」と言葉を結びました。

学習が始まる前までは、ずっと堀川校区に住んではいるけれど、どこか遠い存在に感じていた「堀川の店ではたらく人」。学習を進めていく中で、人との出会いや原料、流通といった社会の仕組みを知りました。そして、自分の知らないところで自分のくらしを支えてくれている人の存在に気付く、身近な存在として感じ始めたAさんだったのでしよう。そのようなAさんだからこそ、身近に感じる「堀川ではたらく人」に対して自分ができることとして、作ってくれた食材に感謝しながらいただくことを考えたのだと思います。

子どもたちはこれからも、堀川校区で様々な人と出会っていきます。その際に子どもたちが感じることや想いを大切に、一人ひとりの学習を支えていきたいと思っています。

